

理事会および総会の開催

2022年5月13日、第29回理事会を開催しました。2021年度事業報告及び決算報告がされ、その後、2022年度の事業計画及び予算について意見交換が行われました。本理事会において、理事の選任も審議され、滝澤進副会長と古川弘信理事が退任されました。滝澤氏ならびに古川氏の永年にわたるご貢献に心より感謝申し上げます。また、後任として、福岡県企画・地域振興部国際局長の渡辺文氏と、日本ハビタット協会事務局長の篠原大作氏が理事に就任いたしました。そして、同日の午後、第30回総会を開催し、各議案の審議をはじめ、今後の団体運営について広く意見交換が行われました。

続く、5月16日に第30回理事会ならびに第21回総会が開催されました。会長及び副会長の互選が行われ、会長に中村徹理事、副会長にマリ・クリスティーヌ理事と浅見眞理事が選任されました。また、名誉会長に麻生渡理事、専務理事に山本博子理事が就任しました。そして、今後の団体運営のさらなる円滑化ならびにガバナンス強化のため、定款変更が審議され、承認されました。

ハビタット クイズ?!

イギリスは2018~19年に、「英國コイン探し大作戦」シリーズという、アルファベット「A~Z」までのイギリスを代表するモノや事柄をデザインした硬貨を発行しました。その中で一番人気があるのは、次のうちのどれ?

B ジェームス・ボンド/007

C クリケット

T ティー(紅茶)

I アイスクリーム

U ユニオンフラッグ

ご協力いただきありがとうございます

2021年11月1日 ~ 2022年5月31日

(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができます。心から感謝申し上げます。

会費 日亜化学工業(株)、九州産業大学、(株)新橋スタンプ商会、(株)エッチアールディ、安藤久美子、水上英佐子、原雄次郎、藤本貴也、松本賛次、大庭きみ子、新関文彬、白澤和子、田中正昭、藤村美保、花島光男、篠原大作、三浦教子、中村幸子、三浦弘之、秋本敏文、佐藤和恵、増井俊樹、濱口吉右衛門、本郷謙、丹波佐和子、兼平剛志、川上五郎、三島康雄、原田義信、池村俊郎、山村より子、中富貴仁、柳瀬ユミ、塩野谷住雄、菊地柳季、大島政子、安藤裕子、赤枝恒雄、下村政裕、山本隆一、中村勇、鬼頭猛、丹羽浩康、石井清俊、清水雄二、鈴木有、野崎美知子、奥野照義、遠見幸哉、坂本春生、村野啓子、瀬戸美都子、竹崎勲、山際順子、下津浦康裕、丸井聰、澤渡好子、藤田毅、一柳とく江、樋渡チエホ、錦織穂、小林一、浅見明子、錫切順子、宮田秀子、北村誠吾、中村徹、マリ・クリスティーヌ、橋本久美子、久山純弘、伴襄

ご寄附 SI-熊本さくら、SI-博多、SI-宮崎、水上英佐子、渡邊きぬ子、三浦弘之、丹波佐和子、伊藤志朗、川上五郎、兼平剛志、山口千賀子、藤岡美千代、原田義信、寺田実、中井禮子、野田泰子、酒井純子、富成裕一、丸井聰、新井てつお、森多賀子、松本賛次、中村勇、鬼頭猛、田野井弥生、丹羽浩康、清水雄二、坂篤尚美、土屋嘉克、藤本貴也、亀山啓、谷口せい子、鎌浦たみ子、遠見幸哉、山本隆一、佐々木節子、山際則子、原雄次郎、福迫隆、一柳とく江、樋口謙一郎、白澤和子、篠原大作、藤田美江子、簗恵美子、久山純弘、橋本久美子、ソフトバンク(株)、(株)新橋スタンプ商会、(株)しげ吉、(株)ケイプラン

マンスリーサポーター 安藤芳子、伊東雄、伊木常昭、今村稔、上山佳彦、太田敏子、大下悟、岡田耕造、風間麻実、古庄弘美、下村政裕、篠原昭子、篠原大作、清水益美、清水雄二、藤田美江子、美甘政門、平岡宏一、三島康雄、山本博子、山本嘉彦、渡邊剛人

切手・書き損じハガキ等 JSCO、日本郵船(株)、逗子交流センター、(株)大建、(株)フランドール、郵船トラベル(株)、認定NPO法人難民支援協会、石井清俊、上野万梨子、内田美喜子、大隅道子、大橋俊枝、恩藤百合、古庄弘美、五島尚子、小西鮎子、小林悦子、佐々木節子、佐々木美代子、佐藤和恵、澤渡好子、白澤和子、曾我洋子、樋晃次、鶴見和代、原田義信、樋口謙一郎、藤岡美千代、恭子CLARE、三島康雄、簗恵美子、山本博子、渡邊きぬ子

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、国際協力機構(JICA)、地球環境基金、パナソニック(株)、(株)電通、(株)日比谷アメニス、一財)シルクセンター国際貿易観光会館、半蔵門駅前郵便局、(株)新橋スタンプ商会、トラベルクリエイターズ、トラベレックス、(株)インターパンクHD、(社)日本フランソロビー協会、順天高等学校、青山学院大学、ハビタット福岡市民の会、こどもの夢ネットワーク、アジアの女性と子どもネットワーク、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

募金箱設置にご協力いただいた企業等 成田国際空港(株)、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)、新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西エアポート(株)、福岡国際空港(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、長崎空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、(株)新橋スタンプ商会

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作／編集責任 山本博子）

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コーポ103号 TEL / FAX : 03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp



HABITAT 日本ハビタット協会

まちづくり通信 No. 41

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

ウクライナの復興に向けて考える

2月24日のロシアによるウクライナ侵攻から4か月以上を経た今日も、まだ戦争は収まっています。毎日報道されるウクライナの状況は本当に悲惨で、難民となって近隣諸国に避難した人々は6月13日の時点で750万人を超えたと国連難民高等弁務官事務所が報告しています。空襲警報が鳴る中で不安な日々を送っている市民の方々や、命からがら自国を後にし、避難先の国で言葉の問題などに直面しながら、不自由な日々を送っている子どもや女性、高齢者の様子には胸が痛みます。一刻も早い終結を心から願ってやみません。

そんな中、国連ハビタットの職員から、ウクライナ紛争終結後の破壊されたまちの復興のために力を尽くさなければならないと考え、準備しているという話を聞きました。20年前の日本ハビタット協会を立ち上げたばかりの頃に実施した、アフガニスタン紛争の復興支援のことを思い出しました。

アフガニスタンでは、大勢の帰還難民のための家づくりが急務でした。しかし、女性には家や土地を持つ権利がなかったために、紛争で夫を失った女性が子どもを抱えて路上生活をしなければならない状況でした。日本ハビタット協会はその戦争未亡人に安価で安心して暮らすことができる家づくりを行いました。国連ハビタットでは、その女性たちが収入を得ることができるようパスタ工場を作り雇用し、生活費を得られるようにしました。男性はがれきの処理や道路づくりなどに大勢雇用され、学校や病院づくりにも力を入れました。

アフガニスタン同様、ウクライナでも国連ハビタットは人々に寄り添いながら復興支援を実施することと思います。一日も早く平和な日々が戻り、ハビタットの仕事の槌音が鳴り響くことを祈り続けています。

そのような中、6月26日～30日までウクライナの隣国ポーランドのカトヴィツエ市に於いて、国連ハビタット主催の第11回世界都市フォーラムが開催されました。私はオンラインでいくつかの会議に参加しました。今回の会議ではCOVID(コロナ)、CLIMATE(気候)、CONFLICT(争い)の3個の“C”が大きな課題として注目されました。「より良き未来に向けた都市の変革」という会議のテーマに沿い、「Rebuilding Cities after Crisis」(危機の後のまちづくり)について真剣に話し合われました。ウクライナの復興支援が一刻も早く始まることを期待しています。



2022年度の私たちの活動

新型コロナウイルス感染症が世界的におさまりを見せる一方で、世界を取り巻く課題は複雑化しており、その課題解決のためには「協働」が今まで以上に求められています。

SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の中にも、国だけでなく、企業や市民団体が持っている経験や商品、サービスなどを活かして課題を解決していくことが掲げられています。日本の企業が有する技術や知識は、開発途上国での課題解決に非常に有効です。また、各分野で活躍しているNPO/NGOが力を合わせることで、これまで以上の成果につながると期待されます。

日本ハビタット協会は企業との協働を促進することで、持続可能な地域社会を創造していくます。また、さまざまな分野で活動を実施しているNPO/NGOとの情報共有と協働により、事業実施地域の幅広い生活環境改善に寄与していきたいと考えています。

★ 2022年度 ★
実施事業

スマイルトイレ
プロジェクト
ケニア

ウォーター
プロジェクト
ケニア

環境教育事業
ラオス

子どもの
自立支援事業
日本





ケニアからの現地報告

ケニア政府による新型コロナウイルス感染症予防措置の緩和などを受けて、職員が5月23日～6月9日まで、スマイルトイレプロジェクトの現地視察を行ってきました。職員が目にしてきたホーマベイ県カボンド地区の人々の暮らしをご紹介します！

● 日本からケニア西部ホーマベイ県へ

日本から約11,000km離れています。今回は、日本を出発してバンコクのスワンナプーム国際空港、カタールのドーハ・ハマド国際空港を経由して約26時間かけてナイロビのジョモ・ケニヤッタ国際空港に到着しました。さらに、そこから国内線に乗り継ぎ、ケニア西部のキスム空港に到着後、車で目的地のホーマベイ県カボンド地区へ。最終的に30時間かかりましたが、無事に到着しました。



● 新型コロナウイルス

ケニア国内での新型コロナウイルス感染症予防措置の緩和により、オープンスペースでのマスク着用義務が解除されました。昨年11月に来た際は、都市部では全員がマスクを着用していましたが、今回は着用している人が誰もいないのには一瞬驚きました。都市部は多くの人で賑わっていて、まちは活気を取り戻していました。人や物の流れが経済の活性化には必要なだと感じました。



● 意外にも朝夕は寒い

ケニア西部のホーマベイ県カボンド地区は、標高約1,400mに位置するため、朝夕は涼しくなります。雨が降った後はさらに気温が下がりますので、防寒着がないと寒いと感じるほどです。午前10時30分頃から急に気温が上がり始めて、日中は日焼けする程になりますので、一日の寒暖差が激しいと言えるのかもしれません。ちなみに首都ナイロビはもっと高い約1,700mに位置していますので、さらに涼しくなります。



● 雨季と生活水

ホーマベイ県では約3ヶ月毎に乾季と雨季が交互にやってきます。4月から雨季が始まり1日に何度も豪雨が降ります。滞在中のある深夜にものすごい豪雨と風、雷鳴が轟いた時はさすがに驚いて目を覚ました。

乾季がある地域において、雨季の雨は人々の暮らしにとって自然の恵みになります。雨水を桶やタンクに貯めることで、生活水としてだけでなく飲料水としても利用することができ、人々の命と暮らしを支えています。また、作物の栽培にも適していて、この時期に集中して野菜や果物を育てることができます。

ただ、気候変動により少しづつ雨季の期間がずれたり、雨量が著しく増えたりしています。それにより洪水や地盤が脆弱になるなどの影響が出ています。スマイルトイレプロジェクトで建設したトイレが倒壊する被害もあります。



● 停電

この地域は電力供給が不安定なため週に2度ほど停電になります。そんな中急速に広まっているのがソーラーパネルです。村を訪れるとき家の屋根に大小のソーラーパネルを備えた家庭を見かけるようになりました。夜の生活のための電灯はもちろん、生活必需品であるスマートフォンの充電など、暮らしを支える重要なものとなっています。

宿泊先でも停電の際は、ソーラーパワーを利用していました。発電機によって電力を供給する方法もありますが、こちらの方がエコですね。



● モバイル決済

日本では交通系ICカードやスマートフォンでのQRコードによる電子決済が増えましたが、ケニアでも電子決済はかなり進んでいます。ケニアを代表するモバイルネットワーク事業者サファリコムが立ち上げたモバイル決済「M-Pesa(エムペサ)」が人々の暮らしに浸透しています。

銀行口座を開設するのが難しい人々にとって、スマートフォンや携帯電話を通じてお金のやり取りができるようになっています。普段の買い物はもちろん、ガソリン代やホテルの宿泊費、飲食代などの支払いでもM-Pesaが用いられています。



ケニア スマイルトイレプロジェクト

ケニアのホーマベイ県にて、JICA草の根技術協力事業として実施中の衛生環境改善事業「スマイルトイレプロジェクト」は3年目をむかえ、現在はコドウモ・ウェスト・コミュニティ群の14村を対象に各活動が進んでいます。

2022年2～3月に各村で衛生意識を高めるワークショップを開催し、各家庭でトイレ建設と手洗い場の設置が進んでいます。このプロジェクトでは、トイレ建設は住民自身が行い、建設費用も負担しています。全ての家庭でトイレ建設が進むよう、費用の負担が難しい貧困家庭を対象に農業支援も行っています。

現地からのメッセージ Javen Okello氏「SAWA YUME KENYA」

こんにちは。現地協力団体SAWA YUME KENYAのジャバーンです。SDGsの目標6に「安全な水とトイレを世界中に」が定められていますが、ケニア政府や保健省もその達成に向けて取り組みを進めています。ケニアのトイレ普及率は約40%と言われていて、とても低いのが現状です。

3年目の対象村の一つでは、トイレの普及率がたったの10%でしたが、ワークショップなどを通じて、住民達の衛生への意識が高まり、各家庭でトイレ建設が始まりました。各家庭が調達できる資材を用いて個性的なトイレを建設しています。高価な資材を使える人もいれば、無料なものや安価な資材を使う人さまざまです。トイレはできていますが、トイレに蓋がなかったり手洗い場が設置されていなかったりとまだまだ課題はあるので、フォローアップすることで安全で安心して使えるトイレの普及を目指します。



安全・安心な
トイレの普及を
目指しています!



ラオス ラオス環境教育プロジェクト

ラオス北部のルアンパバーン県内の中学校において環境教育授業と環境保全活動が行われるよう、2018年4月から環境教育事業を実施しています。年々対象校を拡大し、2021年度はルアンパバーン県内の12地区のうち4地区の主要中学校6校の4～6年生を対象に過去に開発した教材を活用しながら、合計で生徒520名、教員12名に対して環境教育授業を実施しました。

現地からのメッセージ Somphong先生「ラオス北部農業短大」

みなさん、こんにちは。農業短大のソンポンです。

昨年もコロナにより活動が制限されましたが、各学校と協力して、感染症予防を行ながら、活動を実施することができました。環境教育授業を受けた生徒たちが環境保全活動を実践するなど着実に環境保全が根付いています。学校周辺の村人達も少しずつ参加してくれるようになりました。このまま学校主体の活動が進んでいけば、教育局が定める「グリーンスクール」の認証を受けられるのではと期待されます。

ルアンパバーン県は鉄道が開通されたため、人や物の流れが促進され、さらなる発展が期待されていますが、自然が守られた地域社会の重要性がますます高まっています。この環境教育事業をとおして環境保全の大切さ伝えたいと思います。みなさんのご支援をよろしくお願ひいたします。



環境教育を活かし、
ゴミの分別にも
力を入れています。